

2020年 ムーヴ巻頭メッセージ

今こそ私学の「自主」が頼もしい



この法律は、私立学校の特性にかんがみ、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立学校の健全な発達を図ることを目的とする。 —私立学校法「第一条」

私立の中学校と高等学校は「自主性」が尊重される独立組織です。地方自治体が置く教育委員会の所轄外(※)。その運営は、設置者たる学校法人にゆだねられます。

市区町村立の中学校は、すべて共学です。例えば女子校で育てたい保護者の想いは誰が叶えるのでしょうか?それは、私立学校です。首都圏には数多くの別学中学校や宗教主義校が立ち並びます。その存在意義は明らかです。(右記の基本コンセプトを重々理解しましょう。)

すなわち、私立学校の価値は自治体の教育行政と適切な距離を保つ「自主性」です。

2010年代は「教育改革期」でした。大学入試改革が宣言されました。情報インフラが急激に発達。学校環境は変わりました。受け身な態度では激動期をリードできません。軽快に「自主性」を発揮した私学が支持を集めました。

本年、人々の想像を超える事態が見舞いました。教育現場は、生徒達のために前例のない困難に立ち向かい、臨機応変に策を講じなければなりません。ますます、私学の「自主」の心と力に期待を寄せるべきでしょう。

⊕ 今春、各地の私立学校はどのように対処したのでしょうか。各校のポリシーやポテンシャルを知るために確かめておきましょう。

私学と公立、どちらを選ぶか。まず、本質的な差異を理解しましょう。

公立学校	私立学校
教育を受ける権利を保障する	教育を選ぶ自由を保障する
原則として「均質」「公平」。	「個性」「独自」こそが価値
特定の思想に基づく教育は不可	「特定の思想」こそが学園の礎

※法律としては私立中学校・高等学校の所轄は各都道府県知事。

真の「自主性」を確信できる私学とは?

—編集部員の私見として例示

先生方が—

- 学校説明時に、建学理念や校訓を強調する。
- 受け売りに塗れず、自校の信念に基づき表明する。
- 「批判」「非難」を叫ばず、「提案」「計画」を語りかける。

受験生とその保護者が—

- 特に公立一貫校のとの差異を明らかに説明できる。
- 周辺私学との明らかな差異を容易に列挙できる。
- これまでの災害時・緊急時の対応に納得できる。

私学を選ぶ抜くための4つの観点。

—温かい心と熱い力を見極めるためには、「D」ばかりを注視せずに、常に「A」を点検してください。

A:教育基盤

建学者・設立母体の思想／教育理念／歴史・実績(等)

B:教育文化

校風(生徒・教職員気質)／得意分野／卒業後の進路傾向(等)

C:教育資産

校舎設備／研究成果／国内外ネットワーク／卒業生の活躍(等)

D:教育技術

各種プログラム運用実態／教職員技量／結果としての進学実績(等)

「ムーヴ」は首都圏で私立中学校受験を志す小学生を応援するためのオピニオン誌です。ムーヴは記者の主観や思い入れを許容した評論記事が基調です。そのコメントに違和感を覚える方がいらっしやるでしょう。学校には得意／不得意があります。ムーヴ記者も「これは改善すべき」と感じる場面に出会います。意見はご家庭やあるいは各ジャーナリストによりさまざまだと思いますが、本誌記事が問題提起として学校研究の契機になればと願っています。「夢を叶える学校選び」のために、数多くの学校の今をお伝えします。→「ムーヴ」は無料の情報誌です。首都圏の中学受験対象の学習塾を中心に配布しています。ムーヴご希望の学習塾の方は、株式会社学術企画まで、ご連絡ください。

激動期だからこそ頑丈な礎を確かめましょう

寺域は約50万㎡。緑が覆う總持寺は、曹洞宗大本山。国際的な禪の根本道場が開いた学園の名を覚えましょう。鶴見大附属は14世紀から守り継いだ信念が支えて風雨に揺らぎません。朝夕の通学路は總持寺の境内です。子どもたちは学園の魂が宿る森を間近に育ちます。



日本に必要な私学として

学校名を「鶴見大附属」と記します。

美しい習慣、哲学を育むために

鶴見大附属では、クラスメートと担任教諭が「ホームルーム」に揃って昼食をとりませう。私立中高では珍しいシーンです。学園の教育を象徴します。皆が合掌して感謝の言葉を囁きませう。特異な宗教儀式ではありません。日本人にとって「当然の習慣」です。感謝の心を忘れずに、人々に真心を示しましょう。礼節に整い、謙虚に振る舞いませう。勤勉に努めて、廉直に自己を磨きませう。禪が論ずるのは難解な教義ではありません。日本人が心得る「あたりまえの姿」です。誰もが理解できる「いただきます」の意義こそが禪の思想の本質です。習慣は一日では成りませう。大人は容易に矯正できませう。心身頭脳が柔軟な成長期に築くべきです。ここでは、美しい生活を心掛けながら、人として生きるための「哲学」が心身に染みわたるでせう。

宗教主義校は数多い。でも、禅宗校(*)は全国に数校のみです。世界が称える日本の美德を体得できる学園は、日本に欠かせない貴重な私学です。

[*曹洞宗と臨済宗]

⊕ 学園に集う教職員は「唯我独尊」の真義を肝に銘じています。教員はすべてかけがえない宝です。個々のカラーを貫きます。個々の心を見守ります。今に相応しい教育手法を開発しながら、モチベーションは常に「目の子どもたちのため」。何よりも大切な学校の要件も禅の教えに基づきます。

キャンパスを見渡してはじめて真価にうなずく学校です

校地の随所で目に映る禪の心。教科エリア型校舎の生活。在校生の活気と先生方の心意気。鶴見大附属のエッセンスは言葉で表すのが難しい。種々社会状態が回復すれば、ぜひ、鶴見の丘を訪れませう。



▲説明会情報

亀山校長先生からメッセージ

動画はこちら



外出の自粛が要請されることで、学校で勉強し、友達と語らう機会が奪われ、遊びに行くこともできないと不満や不安を抱えていることせう。しかし、私たちが勉強を続ける本来の目的は、自分がかかっているかけがえない価値を磨き、輝かせることで、本当の意味で「自由」になることではないでしょうか。そのために、ひと時ひと時を大切に、より高いレベルの自分自身を創造しつづけてほしいと思います。【抜粋】

亀山校長先生は、私学界でリスペクトされる教育者。禪の精神を体現する模範です。長年、東京の私立男子校で数学科教諭を務めた後、2015年から鶴見大附属のリーダーを担います。その柔和なお人柄こそが、今、学園に集まる信望の源です。先生の言葉に耳を澄ませませう。

学校法人総持学園 鶴見大学附属中学校

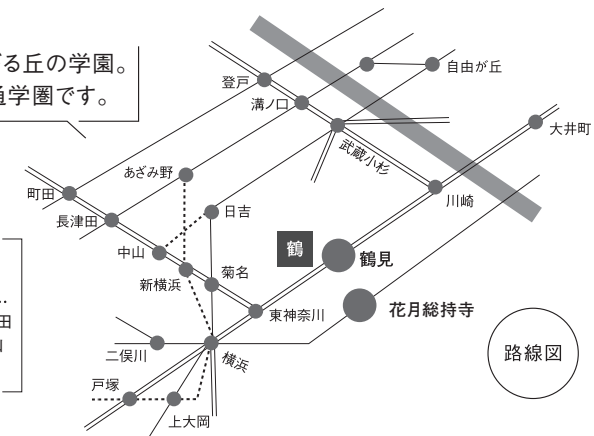
教科エリア+ホームベース型校舎 × 2コース+3ステージ制

https://www.tsurumi-fuzoku.ed.jp/
〒230-0063 横浜市鶴見区鶴見2-2-1
Tel:045-581-6325(代)

JR線「鶴見」・京浜急行線「花月総持寺」から徒歩
ほか東急東横線「綱島」・「菊名」から近隣へのバス便多数

陽を浴びる丘の学園。広域が通学圏です。

鶴見駅まで
30分~40分程度の駅(例)
登戸/藤沢/二俣川/長津田
洋光台/二子玉川/大岡山
新宿/月島/新木場(等)



路線図